

『本のれきし5000年』

川崎市立下河原小学校四年

澄川 華子 すみかわ はなこ

本の昔と未来

と本を読んでいる。そんな本の進歩をあらわ  
 した一さつが「本のれきし5000年」だ。  
 地球には、昔から本好きの人がたくさんいて、  
 本作りには努力を重ねてきたことを知った。  
 最初に本が作られたのは古代エジプト。ま  
 き物のような形で、パピルスという植物のく  
 きで作られていた。しかし、いろいろなこと  
 があり、おこった王様がペルガモンという都  
 市にパピルスをやめた。ペルガモンという都  
 まった。こまだったペルガモンの人びとは、代  
 わりに羊やヤギの皮を使うようになった。し  
 し、パピルスで作った本より、こっちはほう  
 がじょうぶで、本は進化したのだ。「わざわ  
 い転じて福となす」は、こういうことなのか  
 な、と思った。  
 ? ということも、きょうみを持っているのか  
 しはどうか。たとえば、電子書よりも紙の  
 本が好きだ。なぜなら、紙の方がめくりやす  
 いし、友達にかすことができない。あと、電  
 書せきは値段が高いくらい。学校に持ちこめな  
 いが、紙の本は持って行ける。読みやすい。紙の  
 本は水に弱いし、暗やみでは読めない。だから  
 なら、暗い場所でも読めて、水にも強い、そん  
 な紙の本が出てほしいと思っただけのこと、目  
 でも買える安い値段であること、目とか  
 んきょうに優しいこと、大切だ。  
 ことが好きになった。本を読んでも、まます  
 つかおうと思っただけ。絵も写真も、本を大切  
 いなので、ぜひ読んでみてくだささい。